

アマダイ通信NO.60

(Tile fish network letter)

07年ハナミズキ咲く

知人・友人各位

お蔭様で本人も通信も還暦を迎えました。日本では長崎の市長が射殺され、アメリカの大学では韓国人が30名余を射殺、ぶっそうな世の中が続き、戦火も止みません。社会主義日本などと言ってましたが、もう、日本も「社会主義」ではないのかも知れません。平和で豊かな、環境調和の世界はどのようにして、実現可能なのでしょうか？

初めてのラオス・・・「AEON 桜学校」贈呈式へ

イオン環境財団の二月のプーケット植樹ツアーに続き、イオン1%クラブの春休みラオス学校贈呈式ツアーに参加。ハノイ乗り継ぎでラオスへ。首都ビエンチャンに夜着くが、夕食はなし。二月のツアーでは、バンコク乗り継ぎで夜遅く着いたプーケットで食事の予定がなく、機内食は菓子パンのようなもので、ビールも出なかった。ホテル脇の食堂で、ラーメン・餃子と地のシンハービールの小瓶を一本頼んでお腹を満たしたが、まずい上に日本より高かった。時間があるし、ここで腹ごなししておこう。ハノイのターミナルビルの、半分空き店舗で閑散とした二階にある、乗り継ぎフロアで一軒だけのレストランへ。「名代うどん」の幟が立ち、天ぷらうどんやカツ丼、うな丼のサンプルが飾られているが、下手な和食よりベトナム名物フォー麺を食べよう。外国ビールより地ビールのタイガーがいい。鶏のフォーは品切れでビーフのフォーを頼む。4ドルずつで8ドル。国際空港とはいえ、バンコクの空港に較べると本当に可愛らしく、日本の地方空港に較べるまでもなく格段に寂しいが、空港値段だ。美味しいし仕方ないか？味で納得？

二時間ほどのフライトだが、国際線だからサンドイッチにビールくらいは出ないか？期待するが、機内では案じたように、クッキー切れ、ナッツ一袋と水だけ。ビールは出ない。一行18名、日本より二時間遅れの8時くらいに、ハノイで腹ごなしした4人を除き、空腹でラオスの首都ビエンチャンに辿り着く。幸いなことにホテルのレストランが開いている。9時がラストオーダーだが、遅くまでやってくれるという。又、太るよな、血压に悪いよなと思いつつ、空腹組と一緒にアマダイも飲むことにする。円卓を囲み、地ビールのピアラオから始まり、米でつくったアルコール濃度50%ほどの蒸留酒の地酒、ラオラの杯を重ねる。とろみは少ないが、中国の白酒やロシアのウォッカのような感じで美味しい。小さい杯で、水代わりにピアラオと交互に飲む。中国料理に似た、ラオスの料理には合う。ツアー初めての夜だというのに、初対面同志、大いに盛り上がる。

ビエンチャンのホテルの前に大きな寺院。朝が明け始めると黄色い衣をまとった僧侶に出る若い僧侶の群れ。通りに正座し、一行を待つ年配の女達。穏やかな仏教国の朝の風景だが、ベトナム戦争でアメリカの空爆を受け、内戦となり、アメリカ側についた拳銃裏切られた山岳民族の多くが、タイに難民として逃れた。1975年に王制から社会主義共和国に代り、今又、ベトナムの後を追うかのように、脱社会主義化を進める。そんなラオスにイオングループが3年で3百の小学校を寄贈、初年度の百校が完成したという。2月のプーケット震災被災地マングローブ植樹ツアーに続き、その贈呈式ツアーに同行する。

イオンと共に世界へ！

イオングループの植樹や学校寄贈のボランティアツアー参加は今回のラオスで八度目。昨秋のケニア植樹ツアーで🐞が、六回目だと回数の多さを誇ると、十回目という、ツワモノも。ジャスコやマイカル、旧ヤオハンのマックスバリュー、コンビニのミニストップ等、グループ各社や取引先の社員の他、店頭や新聞の広告を見て参加する者も多い。植樹したり、学校を寄贈するのだから、普通のパックツアーでは行けないような奥地や、貧困地域に入り、地元民とも交流、それぞれの国の実情を肌で感じるができる上、何かいいことをした気分になれる。自然環境の回復と貧困脱出の鍵となる教育の底上げに繋がる。

イオンにとっても、企業による社会貢献としてイメージアップになる。ジャスコの進出先では直接営業効果もある。その上、日本のイメージを高め、民間外交としても効果絶大だ。又、合併や吸収で巨大になった寄せ集めのグループに横串を差し、求心性を高める効果もある。更に社員の識見を高め、国際性を養う、社員教育の効果もある。会社は世界中でこんないいことしてるんだと、社員のモチベーションも高まる。参加費も取って効果的に社員教育をしている訳だ。

82歳の岡田卓也ジャスコ名誉会長が、実施主体のイオン環境財団とイオン1%クラブの理事長として毎回元気に参加するが、素敵なことを考えたものだ。これからもずっと元気で、ミャンマーやバングラディッシュ、パキスタン、イラン等、普通のツアーでは行けない、学校や緑が切実に求められている国や地域に、一緒に行くことができたらと思う。

母なるメコンで泳ぐ

ラオスでピエンチャン観光を一日、二泊した古都ルアンプラバンでは観光と学校贈呈式。帰りはハノイに一泊、海の桂林とも言われるハロン湾観光は二度目。夜のルアンプラバン空港はボーディングブリッジも、バスもなく、徒歩でターミナルへ。ホテルへの道中、レストランのテーブルをローソクが照らし、民家の庭で食事する家族。なかなかいい雰囲気だ。聞けば停電だという。雑貨屋もローソクの薄明かりで商う。川岸の段丘上のホテルは自家発電でエアコンも効いている。乾季で水量の少ないメコンの川岸の泥の中に足を踏み入れる。ふくらはぎまで沈む。ヌルヌルした岩に海苔のような水草。昨晚スープに入っていた海苔か？ひどく汚れた水だが、せっかくのメコン、顔だけ出しちょこっと泳ぐ。お腹の手術跡がむずがゆくなる。ハロン湾とどちらの汚染がひどいか？かって船上から飛び込み、コロイド状に白濁、視界ゼロで反省したハロン湾でも、手術痕がピリピリすることはなかった。乾季のメコンに軍配を上げるべきか？

ラオスでは時間がゆったり流れ、貧しさを笑い飛ばすかのように人々は明るく暮らす。都市化が進むが、ビルといってもせいぜい3、4階建て。ベンツ等の高級車も走り、格差が進み衛生状態も良くないが、気候は暖かく、贅沢を言わなければ住む家、食べる物、着る物には困らない。庭先にバナナやマンゴウが実り、平地の水田では米の二期、三期作が可能だ。夜の飛行機から幾筋もの炎が見える。平地が少ないので焼畑農業が盛んだ。トウモロコシやタロイモなどを植える。ユニセフと協力、イオングループが3年で百校ラオスに小学校を寄贈する。初年度30校作り、その贈呈式に参加する。ルアンプラバンからバスを連れ走る。日本のODAで作った、舗装も真新しい山道の両脇にも焼畑。村人総出の小学校開校式と交流会は、これまでになく盛上がる。屋台も出ている。

ラオスの、貧しいことを悪いことと思わず、のんびり暮らすところに日本人は引かれるのか？ベトナム人は、貧困から抜出す好機とばかり、相変わらずバイクで走り回り、金儲けに忙しい。ハノイの町にはフランス植民地時代の瀟洒な建物に高層ビルが混在、ネオンも華やかだ。他方、二、三年前、同じイオンの植樹ツアーで訪ねたカンボジャに較べると、ラオスは豊かでもう少し賑やかだ。バイクより四輪車が多い。カンボジャでは、砂埃を上げ、時に家族全員？4, 5人も乗ったバイクが、夜は灯火も点けずに走り回り、金を取ってバイクの後に人を乗せるバイクからよく声を掛けられた。ピエンチャンでは日本製のピックアップやバン、乗用車が多い。韓国車も見掛ける。バイクに、両サイドに長椅子のついた車体をくっつけた三輪タクシーウクトウクが走る。東南アジア名物の庶民の足だが、この先、ラオスはどこへ走るのか？安い労働力を求め中国へ！次はベトナムへ！と、アジアを奔流となって流れるグローバル資本主義の、流れに乗るか？呑み込まれるか？ベトナムの次はラオスか？カンボジャか？

免疫力落ちてますね！どきっ！・・・ヘルペスです！

花粉症の季節、鼻がグズグズ、目の周りも痒い。ここ数年、井草の土橋皮膚科で、ステロイド剤を処方して貰い良く効く。前回、三楽病院の生活習慣病センターの高血圧の診察の際にホルモン異常を疑われる。ステロイド剤が理由か？気になる。三月半ばまで薬なしで来たがそろそろ辛い。一週間ほど前から気になる右肩の「虫刺され」を見せると、帯状疱疹ですよ！免疫力落ちてますね！と土橋君。癌患者は一瞬落ち込む。

痛みもないんですか？熱もないですね！子供の時やった水疱瘡が神経に巣食って隠れてて、大人になり体力が衰えたり、ストレスが多い時に、神経に沿って帯状の疱疹が出るのがヘルペス（帯状疱疹）です。高熱が出、痛みが伴うのが普通なんです。目に出ると失明する人もいます。稀に熱も痛みもない人もいますが、と不思議がる。週末6回目の日帰りスキーに行くんですが？と聞くアマダイに、大事取って止めた方がいいですよと、土橋君。一日8mgのステロイド剤では血圧に影響しませんよ、飲まなくても血圧高いでしょ？と、こちらの懸念は晴れる。スキーは諦め、薬を大量に貰う。

帯状包疹は大事に至らず、一週間ほどで引け、3月末と4月初の日曜日、奥利根の宝台樹スキー場に日帰りスキー。スキー場脇のレストランで美味しい漬物、モツ煮、露味噌田楽で地酒をやり、手打ち蕎麦でやる。スキーの先を揃え、急斜面に前傾姿勢で突っ込む！還暦過ぎて、仲間を誘い毎週のようにスキーができるのも、キリリと身も心も引き締まる冬が好きなのも、雪国育ちで寒さに鍛えられ、毎日裏山でスキーしたから？誰に教わるでもなく我流で、綺麗には滑れないが、どんな斜面でも突っ込んで行く。己が人生と重ねる。入浴料三百円の、水上町営諏訪温泉で一風呂浴び、気分よく帰る。

食生活改善を！・・・長年の生活習慣どう変える？

土橋皮膚科へは花粉症がそろそろ・・・ということで顔を出したので、点鼻、点眼、ステロイド剤と花粉症薬も一式貰うが、今シーズンは使わずに済みそう。目も鼻もむず痒いのですが、我慢できています。帯状包疹の薬が花粉症にも効いたのでしょうか？それとも花粉症と癌に少しは効かないかと、ポリフェノールの豊富な甜茶を飲み続けているのが奏効したのでしょうか？

困ったのは高血圧です。自覚症状もなく、二ヶ月程、初歩的なカルシウム拮抗剤を飲んでいますが、余り下がりません。栄養相談でのアドバイスはみなわかっていることですが、酒の付き合いを前提にすると、難しい。呑兵衛って仕様がなと思いつつも、どう動機づけるか？できることからと、自転車を止めて駅まで18分歩き、朝のベーコンエッグをハムエッグに、バターロールをマーガリンではなく低糖のジャムで食べ、麺つゆは飲まない、毎食野菜を食べる、と素敵な栄養士さんと固く契り？を交わす。

幸い三楽病院の診察でも、直近のCT（断層撮影）の結果は腹部、胸部とも異常なし。動脈瘤もなしで、血管も柔らかく、石灰化もなしとの診立て。血圧は高いが、そのために今直ぐどうこうと言うことはなさそうで、一安心。腫瘍マーカーも大丈夫。術後4年経過したとはいえ、リンパ節三箇所に移っていたので、肝臓や肺に移移の可能性があります。大丈夫と思いつつも多少の不安はある。普通なら節制して・・・となるのですが、土日以外毎晩飲んで、休みはゴルフかスキーに出掛けることも多く、時々海外にもと、タフなのか？生き急ぎか？取り合えず油、塩分、酒控え目で減量努力をしよう！その内、降圧剤も効いて来るだろう。相変わらず能天気、「前向き」に考える。

大腸がんの予後・・・松下哲先輩（三鷹寮 S29 年入寮）からのアドバイス

私は内科医ですのでステージ b の詳細は知りませんが、息子が中学生の時に肉腫を経験したりしたので、病理学者の智慧はよく知っている方ではないかと思っております。

大腸がんの手術に際しては、切除した大腸、リンパ節の標本では、がん細胞の大腸壁への浸潤度、特に切除断端のがん細胞の存在、腹膜側へ達しているかどうか、静脈への浸潤、リンパ管への浸潤、リンパ節への転移を病理学者は詳細に見ます。静脈への浸潤があれば、がん細胞が血流に乗って遠方の肺などの臓器に移移する可能性があります。リンパ管への浸潤は通常そのリンパ管の下流のリンパ節でがん細胞は捉えられ、更にその下流のリンパ節に移移がないとすると、リンパ管経由のがん細胞の転移はそこで止まったと判定されます。このような記述や予後の説明は、通例しないでステージ分類とか、リンパ節転移の数を患者さんには生存率を含めて知らせています。しかし上述のように詳細に見た場合、同じステージでも内容によって、予後に関して微妙な差が存在します。なお病理標本は数ミリずつの切片で観察しますので、その間にある組織所見は見逃す可能性があります。がん専門の病院あるいは、病理学者が常勤している病院を除いて、普通の病院では病理検査は外注することが多く、送ってくる返事も上述のようなステージ分類、リンパ節転移数プラスいくつかの記述に留まることが多いです。

既に術後4年経って、血流に乗った遠隔転移もなく、リンパ節転移は全て切除されていて（その下流のリンパ節には転移は無かった）がんは残っていない可能性が強いように思います。またがん細胞が残っていても、免疫の力が強ければ、化学療法の効果もあって、再発しないことがあると言われてます。しかしこういうことは確率なこと、絶対的ということではありません。五年経つと再発がなくなるのではなく、一応五年が生存率の参考にされています。なお二次がんと言って、がんを経験した人は別のがんを新たに生じることがあり、胃や肺、それに大腸などの検査は毎年されたほうがよいです。大腸がんの友人の場合は胃がんがその後発生し、これは粘膜内に留まるステージで手術できました。

「団塊オヤジの癌闘病記」

大腸癌ステージ b (殆ど治癒する見込みなし・・・岩波新書「胃がんと大腸がん」) の術後4年経過、「完治」と言われる術後5年まで1年、大分気が楽になりましたが、飽くまでも確率の問題であるということ。定期検査は欠かさず、ストレスレスの生活を心掛け、免疫力の向上に努めたいと思います。時にアドバイスを求められ、参考になるとか、元気づけられるという方もいらっしゃると思います。アマダイ通信の闘病記? 部分だけ抜き出し、ホームページにぶら下げておきます。興味のある方はご覧になって下さい。

物価狂乱・・・黄土高原便り (N0395, 396, 07年1月)

高見 邦雄 (緑の地球ネットワーク事務局長)

1月10日から大同にいます。プロジェクトの進行状況、来年の計画などを話し合っていますが、その中で頭の痛いことがあります。物価も賃金も恐ろしい勢いで上昇しています。

	2000年	2004年	2005年	2006年
臨時工賃金(日)	15	25	35	50 (単位は元)
石炭(1t)	60	210	320	450
小麦粉(25kg)	32	39	42	55
豚肉(1kg)	9	9.6	9.6	15
鶏卵(1kg)	4	4.2	4.6	7.2
プラスチック(1kg)	6	7	8	14
住宅(平米)	800	1000	1500	2000
ガソリン(L)	1.8	2.9	3.9	4.95
尿素(肥料/1袋)	65	75	85	125
農薬(1瓶)	6	7	9	12

大同事務所の魏生学副所長の記憶によるものです。挙げた品目の偏りも仕事内容によるもの。プラスチックとあるのは水道ホース、ポリフィルムなど、プラスチック製品の平均的な価格。こういうものを中国では目方で売っている。野菜が抜けていたので聞くと、季節による変動が大きく、いいにくいとのこと。冬を基準に思い出してもらいました。

	2000年	2006年
ハクサイ(1kg)	0.2	3
キュウリ(1kg)	1.6	6
トマト(1kg)	3	7

衣食住の全てにわたりといたいところですが、衣が抜け落ちています。衣服なんかは余り変わってはず、現代生活に欠かせない家電なんかは、逆に値段が下がっているそう。

大同は中国一の石炭の街。逆にいえば市の経済は石炭に頼りきっています。GDPの60%以上が、石炭関連。その浮沈が激しい。一昔前までは、中国のエネルギー源といえば完全に石炭で、庶民の生活燃料でもあった。そのため政策的に価格が抑えられていました。80年代からの中国の経済発展に伴い、建築ブームが訪れ、砂利なんかが高騰しましたけど、石炭は据え置かれたまま。石炭が砂利より安いという事態さえあった。1tが、30元とか40元。それから、石炭から石油、天然ガスへの転換といった過程も進みました。

お隣の陝西省の榆林や内蒙古などで天然ガスが開発され、北京に運ぶパイプラインが大同を通過しています。それで石炭は売れない。廃れるようにみえたんです。その頃の大同は沈みきり、街中が暗かった。ところが近年の中国経済の大膨張で、石炭だって生産がまにあわない。価格も暴騰した。なんと6年で7.5倍。皆まだまだ上がると考えています。私たちの拠点の環境林センターでも燃料に石炭を使い、毎年まとめ買います。今年は特に多い。あちこち積んでます。更に上がると見越し、少し余分に買った。だから更なる価格上昇を結果する。石炭以外のものにも通じます。先を争って買う。街中に活気を感じます。

とにかく、会う人、会う人が、「なにかかも、高くなった」といいます。特に一昨年から昨年にかけての上昇が、急だったそう。日本でも狂乱物価といわれた時期がありますが、この数字をみていると、あれなんか、かわいい。不動産なんかは、投機対象にもなっていそう。こんなに物価が上がる一方、賃金も上がっています。年間に30%以上、上がることも珍しくない。そうでなかったら、生きていけません。でも、どの分野でもそういう訳にはいかない。年金生活者なんて大変だと思いますけど、農村では年金はないのが普通です。それに、条件のよくないところの農村は食糧だって自家消費分がやっとなで、売るほどの収穫はありません。穀物価格が上昇しても収入が増える訳ではありません。逆に、化学肥料や農薬、種子などは確実に高くなります。資源の偏在による格差も大きくなります。靈丘県は大きく伸び、GDP 成長率は大同市で一番だといっています。ここは太行山の中にあり、山ばかりで平坦な土地がなく、しかも、産業は農業だけで、長年、国家級の貧困県でした。ところが、鉄鉱石をはじめとする地下資源の開発が進んだため、急成長しています。大同県は今でも農業県です。県全体で見れば、人口の割に耕地が広く、農業条件は相対的に良好だった。しかし、石炭はありません。鉄鉱石その他の資源も皆無ではありませんが、量的にはさほどでもない。農業の生産性は鉱工業とは比べ物になりませんから、やっぱり苦しいだろうと思います。

私たちの協力事業がかかえる困難は、現地の人の生活より深刻かもしれません。化学肥料も農薬も、その他の物価も上昇しています。現地の人たちはそれを補う賃金上昇が、大なり小なり期待できる訳ですが、私たちにとっては賃金上昇も大変痛い。郷や村と協力しそこで実施するプロジェクトは、賃金も苗木代も計画時の値段で実施できますが、環境林センターをはじめとするいくつかの拠点は、平均的な賃金でなければ労働力を確保できませんから、維持が本当に大変。その上、このところ中国元に対し円安が続きます。2006年4月は1元 = 14円前後でしたが、2007年1月は1元 = 15円以上になっています。10%の変動が、プロジェクト費だけでも数百万円の違いになります。ダブルパンチ、トリプルパンチです。北京まで帰ってから、物価についての情報を求めたのですが、全体としてやや上がっているようですが、大同ほど顕著ではないよう。大同の物価がまさに狂乱というべき状況にある原因は、石炭の高騰がその他の物価まで押し上げていること。山西省は、改革開放と経済発展が遅れてスタートし、物価も賃金もずっと低めだったものが、全国的な水準を追いかけ始めた、といったところでしょうか。いずれにしろ、少し落ち着いてくれないことには、次年度以降の計画を立てるのも困難です。

遅れて来た全共闘？都知事選終る！

4月7日の都知事選最終日、夕方から制限時間の八時まで、浅野候補が最後の演説をした、新宿駅東口で旗を持って知事選のピラ撒き。こんなことするのは何十年？振りだろろう？終って団塊ネットの仲間一杯。浅野君が12時まで東口駅前握手作戦をするというので、握手してから帰ろうとするが、携帯片手に浅野候補とツーショットしようとする若者で盛り上がる。結局12時までツーショットの手伝いと浅野コールが続く。

入学同期で、駒場の教養学部ではサークル連合の学友会事務局で活動していたと●が記憶する浅野君は、最後の演説で、大学では遊びも勉強も中途半端なノンポリだった。負けるのわかって安田講堂に籠る全共闘の学友に負目を感じたと語る。今回は、我が全共闘の仲間と同じように、敗戦覚悟で火中の栗を拾ったんだと、浅野君に熱いものを感じ、最後まで付き合う。

残念ながら浅野君は165万対280万票で敗れる。現職の強み、知名度、ここまで政治に介入していいのか？と思われるくらいに、OBの佐々淳行を選対事務局長に立て、宮城の二の舞を避けようとする警察の力を向こうに回し、前回樋口恵子さんが獲得した80万票を大きく上回る票を獲得、善戦したといも言える。何よりも一度切れた、政治への熱い思いを再度燃え上がらせ、敢えて戦いに立ち上がったことに敬意を表したい。

上海の街から見る日中歴史認識・・・5.17団塊ネット勉強会

講師：宮内雄史（東京大学特任教官・北京駐在、前三菱商事上海駐在）

上海の街には外灘・南京路・豫園・新天地以外にも、日本人にとって関連の深い歴史、事件、建築物が沢山あります。中国通の宮内氏に、近代日中関係のトピックスを、上海の地図と豊富な写真で紹介していただき、小泉政権から、安倍政権、温家宝訪日と、日中関係の転機に当たり、長い日中の歴史の中で、歴史認識と日中関係を考えます。

「上海に日本租界はなかった、高杉晋作の上海訪問、上海で失われた重光外相の右足、李承晩の亡命政権、上海のユダヤ人街、ロシア領事館の数奇な運命、日本軍を巡る暗黒街の三巨頭、上海市は何時設立されたか？東京で結婚した宋慶齡と孫文、犬と中国人入るべからずの黄浦公園・・・」

日 時：5月17日（木） PM6時開場、6時半開会、9時終了後、二次会あり。

場 所：学士会館本館306号室

（千代田区神田錦町3-28 地下鉄神保町下車 03-3292-5931）

会 費：3000円（軽食込み）

申込先：干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

「日産で起こっていること」・・・三鷹クラブ第72回定例懇談会のご案内

1959年入寮の森山寛さん（元日産自動車副社長）から、「日産で起こっていること」と題してお話を伺います。森山寛さんは1960年、安保条約をめぐる騒ぎが収まりかけた頃、三鷹寮に演劇集団を立上げる動きが起り、「劇団みたか」（後に「創造劇場」と改称）が誕生しました。劇団の中心が森山さんで、俳優として常に主役を演じられたほか、演出や舞台装置の設計・製作など裏方としても多彩な才能をフルに発揮されました。

劇団の活動のピークはおそらく61年秋、近藤靖裕さん(59年入寮)が書下した創作劇「ユダ」に取組み、駒場祭および中野公会堂での上演を実現させました。この時の森山さんの「バラバ」(キリストと一緒に処刑されたと伝えられる盗賊or革命家?)役での熱演は、同世代の多くの人の記憶に残っていると思います。

森山さんは、1963年経済学部を卒業、日産自動車に入社しました。若い頃は主として人事関係の仕事に従事、84年英国進出のプロジェクトのスタート後はこれに大きな夢と情熱をかけて取組み、87年渡英直前に会った時にはこれから始まる仕事を楽しみに張り切っている気持がよく伝わりました。帰国後、役員に昇格し、99年日産がルノーの傘下に入ってからゴーン新社長の下で国内営業担当副社長の重責を勤められました。2005年、日産を退職され久しぶりにお目にかかった時には、イングリッシュ・ガーデンなど多方面の趣味を満喫されているようにお見受けしたのですが、昨年9月「もっと楽しく - これまでの日産、これからの日産」と題する回顧録を出版されました。

この本は、「日本の経営に最も適合性の高い自動車産業において、そのトップ企業であった日産が何故外資の軍門に下るような事態となったか」という深刻な問題意識の下で、自分の42年間の会社生活を詳細に跡付けられたものです。経営に関する本は沢山出版されていますが、これほど切実に問題の渦中にある人間の心情を含めて解き明かしたものはないと、一読後大変感激いたしました。懇談会当日は、自動車産業や日産の状況につき、森山さんならではの他に類をみない鋭い分析がお聞きできるものと思います。

(1960年入寮 木下栄一郎記)

記

日時：平成19年5月21日(月) 18時30分～21時

場所：学士会館本館203号室(千代田区神田錦町3-28 03-3292-5931)

会費：5000円(会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み)

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

事務所スタッフ急募!

二人で交代でアシストしてもらっている事務所のアルバイトスタッフですが、1名が辞めることになり、募集しています。週に2、3日、10時から夕方5時まで、昼休みを除き6時間事務所に詰めていただき、電話や来客対応、パソコンでの簡単な文書、会計処理等が主な仕事です。時給千円プラス交通費を支給します。性別、年齢は問いませんが、パソコンを多少たしなむ方を求めます。連絡・ご紹介は電話または、メールで当事務所までお願い致します。

最後に

本通信も60歳、還暦?となる。よく発行して来られたものです。部数も当初の5百部ほどから、最近は隔月に3千部発行。干場と名乗って思い出していただけない方も、あのアマダイ通信の・・・と言う思い出していただき、話がスムーズに進みます。毎号お読みいただき、ありがとうございます。今後とも、宜しくお願い致します。再見!